



北の空 君は無敵の可能性

平成23年度全国高等学校総合体育大会

2011 熱戦再来 北東北総体

開催まであと

2 ヵ月

北東北総体 自転車競技の日程

開会式 8月8日(月) 美郷総合体育館リリオス
 トラックレース 8月9日(火)~11日(木) 美郷町自転車競技場
 ロードレース 8月12日(金) 仙北市田沢湖周回特設コース

町民の皆さんのご声援を!!
インターハイの前哨戦

第57回秋田県高等学校総合体育大会が行われます

トラックレース/美郷町自転車競技場

6月4日(土) 午前9時30分~午後4時

6月5日(日) 午前9時~午後2時

ロードレース/奥羽山荘周辺道路

6月6日(月) 午前9時~

インターハイに向けて美郷町自転車競技場
走路の補修工事を行いました。この工事は公益財団法人車両競技公益資金記念財団の助成金(競輪・オートレースの売上金)を活用して行われました。

インターハイ総合優勝を目指して
大曲農業高校 自転車競技部

先月号で紹介した六郷高校とともに自転車競技で数々の栄光を勝ち取ってきた大曲農業高校自転車競技部の皆さん。今年は新入部員3名を迎え、部員総数13名で日々の練習に励んでいます。

練習のメニューは大きく分けて二つ。一般道で行うロード練習と美郷町自転車競技場で行うバンク練習です。平日はロード練習を中心に行っており、70kmほどの起伏のあるコースを時速約40km/hで走ります。この日は監督の藤井亨先生とコーチの高橋秀作さんの指導のもとバンク練習が行われました。キャプテンの高橋大輝さんは「県総体はひとつの通過点。地元開催のインターハイで総合優勝を目指して頑張ります」と話してくれました。

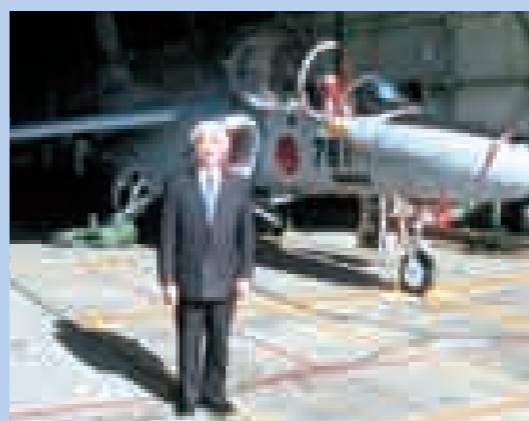


■バイクもがき
コーチが運転するバイクにぴったり付いて走る高橋大輝さん。ゴール時の最高時速は70km/h以上にもなります。

美郷の魅力をもPR
美郷町ふるさと大使

美郷町ふるさと大使

町の観光資源や物産などを広く情報発信するため、町とゆかりのある6名の方々に「美郷町ふるさと大使」を委嘱しています。大使の皆さんには、友好都市大田区で開催されるイベントの誘客や、清水・ラベンダーなどの写真が印刷された特製名刺の配布などの観光宣伝活動にご協力いただいています。



三浦 喜代治 さん

- 美郷町仙南地区(金沢西根)出身
- 美郷町ふるさと大使、神奈川大磯町議会議員
4期16年を歴任
- 健康づくりと楽しみのため月1回程度ゴルフをたしなむ
- 神奈川大磯町在住74歳

ふるさと大使
活動について

三浦 喜代治

美郷町の皆さん元気で過ごしていか。卯年を迎え雪国では近年にない記録的な豪雪に見舞われ、各ご家庭も、また行政においても除雪作業に大変ご苦労なされたことに、衷心よりお見舞い申し上げます。
さて、美郷町も早や合併7年を迎え、松田町長にはご多忙の中、遠路関東地方に向いて美郷町の町民の暮らしぶり、行政の状況を丁寧にご講演していただき、ふるさとを離れて

生活を営む私たちにとって安心の念に深く感謝しております。

美郷町は合併後いち早く千畑、六郷、仙南の3地域を代表する関東圏在住の人を「ふるさと大使」として任命委嘱し、この任を受けた人たちは全国に向けて積極的に美郷町の宣伝活動に努めています。

委嘱を受けた私たちは、美郷町の教育文化はもとより、名水百選にその名を立証されている六郷地区の湧水、それに伴う自然風土に恵まれた流水によって生産製造されたお米、お酒、飲料商品が最も優れた特産品として販売されていることを全国に向けてPRし、大変に良い評判を受けています。

昨年10月、「ふるさと大使全国大会2010」が東京都千代田で開催されました。その節、元総務大臣増田寛也氏が「日本の元気はふるさとから」と題して記念講演されました。引き続き「ふるさと再生に向けて」と題してパネル討論が展開され、6名のパネリストの中の佐賀県小城市江里口秀次市長から、「名水百選の中で小城市清水の瀧あがりは、日本一鯉の洗いがおいしい。昨年6月には全国水環境サミットが小城市で開催された。2011年は、秋田県美郷町が開催地となっており、今日この大会々場に美郷町のふるさと大使が来られていることを嬉しく、このような縁を大切にしながら連携と交

流を深めていきたい」との発言がありました。懇親会に移り、江里口市長から「美郷町松田町長さんが早く開催地を引き受けていただき今から楽しみです。またその折りに大使の皆さんとお会いしましょう」とのお話がありました。

昨今のニュース報道によると、アジア諸国から山林民有地、特に水源のある山林を坪当たり30円と途方もない安い値段で買い取られていることを知り、日本の水資源の変化が心配されます。美郷町六郷地域の山林水源を守ってほしいと念ずる次第です。

また、日本の食料自給率は40%で、残り60%は海外からの輸入が現状といわれています。今、国政ではTPP(多国間貿易自由化)やFTA(2国間双方関税撤廃)です。最大不利益を受けるのは農産物、特に日本の流通米で仮に10キロ当たり2千500円とすると、海外輸入米は60キロで3千円程度と算出されています。米作は想像を絶する出来事になります。

あきたこまちのブランド輸出化、米粉を使った商品の開発など、女性の皆さんの創意工夫パワーを発揮されることをご期待申し上げます。